

2017年3月30日から4月2日までの4日間、イギリスのリバプールで開催されたGlobal Greens Congress 2017(緑の党世界大会)に参加しました。世界90ヶ国以上から1900人が集まった世界大会。環境、人権、非暴力、民主主義を守る政治を推進するために、日々活動している各の大臣、議員、はたまた私のような一般人が集合し、意見を交わし、共に食べ、飲み、そして、同じ目標のために動こうと確認し、それぞれの国に帰っていく。この世界規模の連帯感には、これまで経験したことのない興奮と希望を感じました。紙面も限られていますので、多くは紹介できませんが、写真とともに、私の4日間の体験を共有していただけたら、嬉しく思います。

グローバル・グリーンズ 緑の党世界大会@リバプール

report: 小橋 かおる

「花と爆弾ーもう、戦争の暴力はやめようよー」主宰。
緑の党グリーンズ・ジャパン会員。

↑様々な討議が、朝9時から夜の8時まで連日行われていましたが、私は少し失礼して、会場近くの「国際奴隸博物館」を見学に行きました。リバプールはいわゆる「三角貿易」で、アフリカからアメリカ大陸に黒人奴隸を輸送することで富を築いた港町。海運によって栄えた街の歴史を伝える海洋博物館の最上階に奴隸博物館を設置し、自らの負の遺産を現在そして未来へと語り継いでいこうとする姿勢を感じられました。博物館は、写真のアルバート・ドックの一角にあります。

→3月31日 核・原子力なき平和と安全保障の分科会。4日間の大会では、大会場で開かれる全体会と、小規模の会議室で開かれる分科会がありました。2日目の分科会では、日本の緑の党がコードィネーターを務める「核・原子力なき平和と安全保障」の分科会が開催されました。写真は、福島第一原発事故により、福島県からの避難を余儀なくされ、現在はイギリスのマンチェスター在住の原発避難者の方です。語られる実体験は、聞く人の心に深く届くもので、分科会終了後も、世界各国の人々が残って、質問や激励の声をかけてくれていました。私が今回参加した一番の理由も、福島原発事故の惨状を世界に少しでも伝えたいと思ったことでしたので、この分科会に関わることができて、とてもありがとうございました。

←大会前日（3月29日）から、世界のグリーンズとすっかり意気投合。写真は、筆者とマケドニアからインドネシアからのグリーンズ。

↓4月1日。3日目の分科会では日本の報道の自由の危機について、藤田早苗氏(英国エセックス大学人権センターフェロー)をお招きしての講演会を日本の緑の党が開催しました。報道の自由度ランクイング(2016年)では72位と急落している日本の現状を世界に伝えましたが、一番伝えなくてはならないのは日本国内ではないかと思い、5月に緊急帰国される藤田氏に、神戸での講演会をお願いしました。平日の夜となりますが、ご都合よろしければ、ぜひご参加ください。

◆国際社会から見た日本の表現の自由とメディアの問題

～グローバル・グリーンズ世界大会フォローアップ講演会 in ひょうご～
日時：2017年5月17日(水) 18:30～20:40 (18:00 開場)

場所：神戸市勤労会館 403・404号室

講師：藤田早苗さん(英国エセックス大学人権センターフェロー)

参加費：1000円(原発事故避難者、学生、障がい者/同伴者無料)

連絡先：hyogo.greens@gmail.com 070-1308-7717(松本)

主催：緑の党ひょうご(緑の党兵庫県本部)

